（別紙様式4）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
麻生医療福祉＆保育専門学校	平成9年2月13日	大山　明	〒　812-0016 （住所）　福岡市博多区博多駅南2-12-29 （電話）　092－415-2294
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	理事長　麻生　健	〒　820-0018 （住所）　福岡県飯塚市芳雄町3-83 （電話）　0948-25-5999

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
教育・社会福祉	福祉・教育専門課程	こども未来学科	平成11（1999）年度	―	平成25（2013）年度

学科又は専攻科の目的	人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を認識し、知識・技術・人間性を高めることで、乳幼児保育の分野で広く活躍できる人材を育成する。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	近畿大学九州短期大学通信教育部保育科併修による短大卒（保育科）と保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得を目指す。

修業年限	昼夜の別		全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,886 単位時間 単位	1,282 単位時間 単位	1,204 単位時間 単位	400 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数（学生実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
60 人	16 人	1 人	6%	4 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	7	人
■就職希望者数（D）	7	人
■就職者数（E）	7	人
■地元就職者数（F）	6	人
■就職率 **(E/D)**	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 **(F/E)**	86	%
■卒業者に占める就職者の割合 **(E/C)**	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

社会福祉法人甘木山学園、社会福祉法人天真会、学校法人水巻学園、社会福祉法人寿光会、社会福祉法人まごころ会、社会福祉法人元倉会、社会福祉法人福栄会

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://asojuku.ac.jp/amfc/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	2,886 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	400 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	400 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	400 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総単位数	0 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		1 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年6月　7日（土）14:30～16:00 / 第2回　令和8年2月25日（水）15:00～16:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
天野　恵	（福）まごころ会　あゆみらい保育園　園長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
阿部　良寛	（一社）福岡県私立幼稚園振興協会 常任理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
上村　仁美	麻生医療福祉&保育専門学校　専任教員（リーダー）		ー
鎌田　昇子	麻生医療福祉&保育専門学校　専任教員（サブリーダー）		ー
柳川 紀久江	麻生医療福祉&保育専門学校　専任教員		ー
岸本　愛海	麻生医療福祉&保育専門学校　専任教員		ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
教育実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習を行う。	下山門幼稚園 西陵幼稚園 吉塚ゆりの樹幼稚園　他
教育実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習（部分実習または全日実習）を行う。	博多のびっこ幼稚園 須玖幼稚園 席田幼稚園　他
保育実習Ⅰ（保育所）	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	あいあい保育園 岡本保育所 高取保育園　他
保育実習Ⅰ（施設）	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	なかべ学院 甘木山乳児院 和白青松園　他
保育実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	保育実習Ⅰ（保育）での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、現在求められている子育て支援に必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。	いろどり真愛保育園 ひがしふくま真愛保育園 西海保育園　他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本保育学会大78回大会	連携企業等：	一般社団法人 日本保育学会
期間：	令和7年5月10日	対象：	専任教員1名
内容	保育・幼児教育を対象とする、研究者と実践者の集う学会。研究発表・ポスター発表などで、最新の保育・幼児教育に関する研究成果が共有される。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	高等教育機関における合理的配慮	連携企業等：	有吉祐睡眠クリニック
期間：	令和7年8月27日	対象：	専任教員1名
内容	教職員が知っておくべき合理的配慮の基本的な内容を学ぶ。誤解されやすいポイントや要点として知っておくべき点を知り、発達障害をベースに、様々な状態像の学生のケースを通じて理解を深める。		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	紙芝居アカデミー	連携企業等：	株式会社　童心社
期間：	令和8年8月1日～9月1日	対象：	専任教員1名
内容	童心社編集長による「紙芝居の魅力」講話　東京未来大学こども神智学部教授　佐々木由美子氏「保育と紙芝居」講座 こがようこ（絵本作家・紙芝居脚本家 「演じて生きる紙芝居」講座		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	人権にかかわる『差別用語』・『不快に感じさせる表現』の理解	連携企業等：	福岡県教育庁 教育振興部
期間：	令和8年8月25日	対象：	専任教員1名
内容	近年、社会における人権意識や多様性への理解が高まる中、これまで日常的に使用されてきた言葉や表現の中にも、相手に不快感を与えたり、差別的な意味合いとして受け取られたりするものがある。本研修では、教育現場における適切な言葉遣いや配慮について理解を深めるとともに、高校で行われている人権教育や進路指導の現状についても学ぶ。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けていない
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
占部　尊士	西九州大学　准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	有識者
井浦　賢治	福岡市東住吉公民館　主事	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	地域住民
田中　隼平	心理カウンセラー科	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
宮井　浩志	社会福祉科	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
永渕　加代	こども未来学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者等
大洲　隆一郎	福岡女子高等学校　校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	高等学校関係者
天野　恵	あゆみらい保育園　園長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
大庭　欣二	福岡福祉向上委員会　代表	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
潮田　大介	有限会社 ケンルック　事務長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
副島　和代	そえじま内科クリニック　事務長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
西山　謙	診療情報管理研究研修会　委員長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/amfc/2026/hyoka.pdf		
公表時期	令和8年10月1日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/amfc/		
公表時期	令和8年7月31日		

授業科目等の概要

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			幼児の心理学	心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を生かせるようになることを目標年、人はどのように学習を行っていくのかということや、どのように人間関係をづいていくのかを学ぶ、また、心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。	1前	16		○			○			○	
2	○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかると共に、将来あるいは現在、保育者として、親として、一人の大人として、現実に一人ひとりの子どもに具体的にどのように対処していけばいいのか、あるいは実際の教育問題にどう対処しどう解決していけばいいのかなどといった教育をめぐるきわめて重大な課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための基礎を培う。	1前	30		○			○		○		
3	○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと、そして保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。	1前	30		○			○		○		
4	○			教育課程総論	教育とは、子どもが「知りたい」「学びたい」という欲求を触発し、それを教師が援助したり系統立てることにより子どもの発達を促す営みである。この授業においては、教育の方法に関する理論的知識の習得、とりわけ乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解することを第一義的な目標とし、実際の保育現場で実践を構築できる力を醸成していく。本科目は教育原理で学んだ教育についての原則をベースに、特に幼児教育における教育の方法について考える科目である。	1前	30		○			○		○		
5	○			教職概論	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標とする。	1前	30		○			○		○		
6	○			造形表現（指導法）	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	16		△	○		○			○	
7	○			幼児と環境	幼児教育の基本及び領域「環境」の狙いと内容、「環境とかかわる力」の発達について理解する。領域「環境」の変遷についての学修を通して、子どもたちの育ちにとって大切にされているものを知る。自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子供の自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる。	1前	16		○			○			○	
8	○			人間関係（指導法）SC	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。	1前	16		△	○			○		○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			音楽表現（指導法）SC	０才からの音楽的あやし言葉かけ遊び、月令、年令に応じた手遊びやリズム遊び、歌唱曲を動きのある遊びに創作したり、それを実践するなど遊びを中心に実践する。	1前	16			○			○		○	
10	○			劇あそび（指導法）SC	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発育発達を促し、リズム感をつけるとともに、体を通して、感じたこと、思ったこと、考えたことなど動きで様々な表現が出来るよう、指導・援助法を学ぶ。	1前	16			○		○			○	
11	○			音楽表現Ⅰ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1前	48			○		○			○	
12	○			合奏Ⅰ	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1前	16			○		○			○	
13	○			養護原理	社会的養護を必要とする子どもの現実と養護実践の課題を学ぶ	1前	30		○			○			○	
14	○			教育実習指導Ⅰ	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1前	30		○	△		○		○		
15	○			コミュニケーション論	コミュニケーションの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	1前	16		○			○			○	
16	○			ペン字Ⅰ	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	1前	16		○			○			○	
17	○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得する。また、乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明ができるとともに、保育現場における実践を構想できる力を培う。	1前	30		○			○		○		
18	○			マナーⅠ	実社会に求められる人材像、仕事における人間関係を知り、信頼される福祉従事者、教育者として必要な心構えやビジネスマナーを学ぶ。この授業では、グループワークや演習を通し、知識だけではなく、知識を実践に移すことのできる人材育成を目指す。	1前	16		○			○			○	
19	○			健　康（指導法）SC	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	1後	16			○		○		○		
20	○			社会的養護Ⅰ	社会的養護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、児童の人権擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察する。	1後	30		○			○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21	○			健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高めることにくわえ、合理的な運動実践の習慣化を図る上での条件整備のあり方について学ぶ。	1後	16		○			○			○	
22	○			幼児と言葉	人間にとっての話ことばや書き言葉などの言葉の意義と機能、言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける。	1後	16		○	△		○			○	
23	○			造形表現（指導法）SC	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1後	16			○		○			○	
24	○			教育心理学SC	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を学ぶ。	1後	16			○		○			○	
25	○			環　境（指導法）SC	現代の環境で子ども達の生きる力を培うための保育の工夫、すなわち、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1後	16			○			○		○	
26	○			幼児と音楽表現SC	子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。楽典を解説し読譜練習や作品解釈を行う。ピアノは記録票に従いバイエル、マーチ等を学生の力量に合わせた個人レッスンの形態で行い、音楽表現の向上と表現方法についても検討する。	1後	16		△	○		○			○	
27	○			言　葉（指導法）SC	言葉（言語）の発達に関する理論、言葉の発達における子どもを取り巻く環境の影響について、特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。また、保育所保育指針「領域言葉」を理解し、子どもの言葉をはぐくむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	1後	16			○		○			○	
28	○			教育実習事前事後指導SC	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と幼稚園における教育実践とを具体的に統合することによって教育実習に対する意欲や課題意識を高める。	1後	16		△	○		○		○		
29	○			教育実習Ⅰ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、見学・観察・参加実習を主とする実習行う。	1後	80				○		○	○	○	○
30	○			音楽表現Ⅰ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1後	48			○		○			○	
31	○			合奏Ⅰ-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	1後	16			○		○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
32	○			教育実習指導Ⅰ-②	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	1後	30		○	△		○		○		
33	○			教育課程総論Ⅱ	教育とは、子どもが「知りたい」「学びたい」という欲求を触発し、それを教師が援助したり系統立てることにより子どもの発達を促す営みである。この授業においては、教育の方法に関する理論的知識の習得、とりわけ乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解することを第一義的な目標とし、実際の保育現場で実践を構築できる力を醸成していく。本科目は教育原理で学んだ教育についての原則をベースに、特に幼児教育における教育の方法について考える科目である。	1後	16		○			○		○		
34	○			幼児と人間関係	本講においては、保育内容「人間関係」の意義、幼児が人間関係の構築に必要な発達的背景、理論などを学習する。幼児期に豊かな人間関係を築くには、養育者を含めた周囲の大人との温かい人的交流が必要不可欠である。子どもの発達と人間関係をテーマとしながら、さまざまな角度から具体的な指導法について学んでいく。	1後	16		○			○		○		
35	○			自然体験基礎Ⅰ	様々な自然体験を通して、自然に対する知識、経験を得ることで、保育者になった際に子どもたちに対し適切な自然環境との関わりを持てるようになる基礎を培う。また、事前学習、事後学習によって経験と知識の定着を図りより実践的な学びを行っていくことを目指す。	1後	16			○		○		○		
36	○			レクリエーション	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の理論と基礎技術を習得する。	1後	30			○		○			○	
37	○			カウンセリング概論	「心を科学的に解明する学問」である心理学を学ぶことによって、他者や自分自身を論理的かつ客観的に理解することができる。また、人間関係や仕事の悩み、心のトラブルなど、日常生活の様々な場面での問題を心理学理論を活用し解決するスキルの習得を目指す。	1後	16		○			○			○	
38	○			造形表現（指導法）Ⅱ	現実の空間を使って作品を制作する事を前提に、イメージを具体化する為に、一点透視法を用いて作画し、技法の習得と実現へのプランニングを学ぶ。またプレゼンする事によってクラスメイトのアイデアを吸収し、自らの視点や考え方を広げる。	1後	16			○		○			○	
39	○			総合演習Ⅰ	各授業で学んだ内容のつながりを認識し、知識を深める。	1後	16			○		○		○		
40	○			ペン字Ⅰ-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	1後	16		○			○			○	
41	○			国語表現法	保育者として必要な、基本的な国語力を身に着け、言葉や文章表現を理解すると共に、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし言語感覚を磨き、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	1後	30		○			○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
42	○			保育実技Ⅰ	幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）。	1後	30			○		○		○		
43	○			実習実務	実習先への電話の掛け方、実習生個人票の作成、オリエンテーションでの確認事項、実習先訪問の際の注意点など、実習前の準備等を指導・確認していく。	1後	16		○			○		○		
44	○			GCBⅠ	「感謝と思いやり」をテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1後	16		○			○		○		
45	○			交流ゼミⅠ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1後	16			○		○		○		
46	○			子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養い、保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。	2前	30		○			○		○		
47	○			子どもの保健	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	2前	30		○			○			○	
48	○			図画工作Ⅱ	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関しての基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16			○		○			○	
49	○			幼児と造形表現SC	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関しての基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16			○		○			○	
50	○			保育内容総論SC	保育所保育方針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解すると共に、擁護と教育が一体的に展開することを、具体的な保育実践につなげて理解する。また、保育現場を取り巻く諸問題を複眼的にとらえ、保育の多様な展開に対応できる知識や技術を身につける。	2前	16			○		○		○		
51	○			教育実習Ⅱ	幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとし、指導実習（部分実習または全日実習）を行う。	2前	80				○		○	○	○	○
52	○			音楽表現Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2前	48			○		○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53	○			合奏Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2前	16		△	○		○			○	
54	○			教育実習指導Ⅱ	教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2前	16		○	△		○		○		
55	○			保育実習指導Ⅰ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2前	16		○	△		○		○		
56	○			保育実技Ⅱ	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（入門編）。	2前	16			○		○			○	
57	○			カウンセリング演習	カウンセリングの基礎について学び、実践的なカウンセリング技法を習得する。	2前	16			○		○			○	
58	○			リトミック	音楽に合わせて体を動かす音楽教育法の技法と理論を学ぶことにより、保育者として音楽を通じてこどもの感性を養う大切さへの理解を深めていく。	2後	16		○	△		○			○	
59	○			子育て交流広場	地域連携の一環としてリトミックで学んだ理論や技法を元にレクリエーションやリズム遊びなどを展開していく。そこにおいては、0～3歳未満の子どもたちやその保護者が参加しているため、保護者や教育実習ではあまり触れることのなかった未満児の子どもたちとの関りや行動についても学んでいく。	2後	16			○		○		○	○	
60	○			生涯スポーツSC	高齢者、障がい者をも含めた各種スポーツの技能の向上を中核目標としながら、それに関わるスポーツ発展史（ルール史、用具史、戦略・戦術史）の理解を深めたり、国民スポーツの諸相と課題について学ぶ。	2後	16			○			○		○	
61	○			英会話Ⅰ	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	2後	16		○			○		○		
62	○			英会話ⅠSC	英会話Ⅰの授業を通して学んだことを活かし、グループ毎に発表する。挨拶・手遊び・歌・ペープサートなどを使用し、保育の実践を行う。	2後	16			○		○		○		
63	○			子どもの食と栄養	小児の発育・発達の特性、栄養に関する基本的な知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）、食教育の重要性を理解する。	2後	16		○			○			○	
64	○			子どもの食と栄養SC	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得をめざす。	2後	16			○		○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
65	○			情報処理入門Ⅰ	情報の意味とコンピュータの発達過程、ハードウェア／ソフトウェアについて理解する。演習ではWord（ワープロ）・Excel（表計算）・Power Point（プレゼンテーション）の基本操作を習得する。	2後	16			○		○		○		
66	○			情報処理入門ⅠSC	動画作成ソフトを利用し、オリジナル動画を作成することで、動画や画像などのデジタルデータの利用・編集能力を身に付ける。	2後	16			○		○		○		
67	○			子ども家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考えると共に、子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。また、保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が、社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	2後	30		○				○			○	
68	○			幼児への特別な支援	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的変化を促す保育的援助について考える。	2後	16		○			○			○	
69	○			健康Ⅱ	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	2後	16		○			○			○	
70	○			幼児体育Ⅱ	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、特に、幼児体育を実践する上で必要な保育技術と教材づくりに関する実践的知識を習得する。	2後	16			○		○			○	
71	○			音楽表現技術SC	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽表現技術の習得や資質の向上を目指す。	2後	16			○			○		○	
72	○			言語表現SC	保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2後	16		△	○		○		○		
73	○			幼児と健康SC	幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動あそびのレパートリーを増やすこととバリエーションの広げ方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術について学ぶ。また、運動指導の系統性に関する理論学習によって就学前体育の実践課題についても学習する。	2後	16			○			○		○	
74	○			保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）SC	保育実習（保育所）を円滑に行うために、保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2後	16		△	○		○		○		

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
75	○			保育実習Ⅰ（保育所）	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	2後	80				○		○	○	○	○
76	○			音楽表現Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2後	48			○		○			○	
77	○			合奏Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の合奏技術の習得を目指す。	2後	16			○		○			○	
78	○			就職実務Ⅰ（GCBⅡ）	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。「志を立てる」をテーマに、夢・ビジョン・志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	2後	16		○			○		○		
79	○			保育実習指導Ⅱ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2後	30		○	△		○		○		
80	○			保育実技Ⅱ-②	保育士として必要な技術（手遊び、制作、遊びなど）を身に付ける（応用編）。	2後	16			○		○			○	
81	○			一般教養Ⅰ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける。	2後	16		○			○		○		
82	○			施設実習指導Ⅰ	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	2後	16		○	△		○		○		
83	○			乳幼児の発達	乳幼児期の子どもの心身の発育・発達の過程や生活環境など、子どもの発達の全体的な姿を把握する。	2後	16		○			○			○	
84	○			総合演習Ⅱ	1年次の学習内容を踏まえ、より実践的な指導方法を学ぶ。	2後	16			○		○		○		
85	○			オペレッタⅠ	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	2後	16			○		○		○		
86	○			交流ゼミⅡ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2後	16			○		○		○		

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
87	○			乳児保育Ⅰ	３歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	30		○			○			○	
88	○			乳児保育ⅡSC	３歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3前	16			○		○			○	
89	○			社会福祉	将来において「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基本的な事項を学ぶ。	3前	30		○			○		○		
90	○			教育相談	子どもの世界や保育士の役割につしての理解を深めることを通して、子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶ。	3前	30		○			○			○	
91	○			保育の心理学	発達の基本的知識や子どもの発達の特徴を学び、保育者として重要な「未透視」をもった発達の支援が実践できるようになる。	3前	30		○			○			○	
92	○			保育・教職実践演習	自らの学びを振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。また、保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力の習得、および使命感と職務内容について理解する。	3前	16		△	○		○		○		
93	○			子どもの健康と安全SC	身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	3前	16			○		○			○	
94	○			障害児保育SC	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的変化を促す保育的援助について考える。	3前	16			○		○			○	
95	○			社会的養護ⅡSC	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設擁護観の形成を目指す。	3前	16			○		○			○	
96	○			保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）SC	保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。なお、実習後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	3前	16		△	○		○		○		

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
97	○			保育実習Ⅰ（施設）	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	3前	80				○		○	○	○	○
98	○			保育実習事前事後指導ⅡSC	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。	3前	16		△	○		○		○		
99	○			保育実習Ⅱ	保育実習での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力。技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。	3前	80				○		○	○	○	○
100	○			音楽表現Ⅲ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3前	30			○		○			○	
101	○			ペン字Ⅱ	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3前	16		○			○			○	
102	○			施設実習指導Ⅱ	児童養護施設等の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	3前	30		○	△		○		○		
103	○			保育実習指導Ⅲ	保育所の機能や内容、実習の目的や意義を理解すること、さらに、専門教育科目で習得した知識や技能と施設における実践とを具体的に統合することによって実習に対する意欲や課題意識を高める。	3前	16		○	△		○		○		
104	○			一般教養Ⅱ	一般教養に関する基礎学力を身に付ける。	3前	16		○			○		○		
105	○			卒業論文Ⅰ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3前	16		○			○		○		
106	○			就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3前	30		○			○		○		
107	○			日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が求めている理念とは何か、また、現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対するリーガルマインドを養っていく。	3後	30		○			○			○	

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
108	○			子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。また、家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家庭関係等について発達的に理解し、子どもとその過程を包括的にとらえる視点を習得する。	3後	30		○			○			○	
109	○			保育・教職実践演習SC	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、形成されているかどうかを検討する。	3後	16			○		○		○		
110	○			子育て支援SC	将来保育士を目指す者にとって必要とされる子育て支援・相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助課程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身に付ける。	3後	16			○		○			○	
111	○			音楽表現Ⅲ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、より実践的な音楽指導法を身に付け、スキルの向上を目指す。	3後	30			○		○			○	
112	○			マナーⅡ	名刺交換など初対面のビジネスマナー、社会人一年目の正しい言葉遣い、保護者対応、職場内でのマナー、連絡帳の記入方法などを身に付ける。	3後	16		○	△		○			○	
113	○			ペン字Ⅱ-②	正しい文字、読みやすい文章を書くコツを知り、常に丁寧に書く意識を持つ。	3後	16		○			○			○	
114	○			障害児保育Ⅱ	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解をさらに深めていく。そして、障害児の発達的変化を促す保育的援助について考える。	3後	16		○			○			○	
115	○			保育実技Ⅲ	保育士・幼稚園教諭として必要な技術（手遊び、製作、遊びなど）を自ら考え、実行できる能力を身に付ける。	3後	16			○		○			○	
116	○			子ども家庭福祉Ⅱ	「児童家庭福祉」で習得した児童家庭福祉全般についての基礎知識と「相談援助」で学ぶ社会福祉の専門的方法を基礎として、児童の生存権や発達権を保障するためのすべての子どもや家庭に対するサービスの援助技術・方法の基本的知識に関する理解を深める。	3後	16		○			○			○	
117	○			多文化共生保育	日本でも近年の在留外国人の増加を受け、保育現場でも外国籍の子どもや外国にルーツを持つ子どもは増加している。多様な文化的背景を持つ子ども並びに保護者を支援していくためには、保育者自身が多様な文化や宗教、言語等の正しい知識を身につけ保育を行う必要がある。今講義では多様な文化的背景を持つ子どもを理解するための基礎的知識を身につけ、これからの社会の変化に対応できる知識・思考力・柔軟性を身につけることを目指す。	3後	16		○			○			○	
118	○			自主実習演習	保育所、幼稚園、施設等への実習やボランティアを通して、更なる知識、技術の向上を目的とする。また、実習・ボランティア先との連絡や準備等、主体的に活動を行うことで自主性、積極性の醸成を目的とする。	3後	30			○		△	○	○		

	（福祉・教育専門課程こども未来学科）令和7年度入学生（※令和8年度より入学生なし）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
119	○			社会福祉演習	各自の知識、技術の向上を目的に将来において「児童の福祉」を推進する保育士に必要な社会福祉の基本的な事項を演習形式にて学ぶ。	3後	16			○		○		○		
120	○			卒業論文Ⅱ	保育や幼児教育などに関するテーマを設定し、グループ調査・研究を通して論文としてまとめ、発表を行う。	3後	48		○			○		○		
121	○			就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3後	30		○			○		○		
122	○			保育相談支援	保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶ。	3後	16		○			○			○	
123	○			オペレッタⅡ	クラスで一つのものを作り上げるというテーマのもと、オペレッタの企画・準備・発表までを行う。	3後	30			○		○		○		
124	○			自然体験基礎Ⅱ	動植物に触れる機会を設け、子どもたちへの指導方法を学ぶ。	3後	16			○		○		○		
125	○			交流ゼミⅢ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3後	16			○		○		○		
合計					125 科目			2886 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	・科目の履修および単位の認定は、科目試験の評価を持って行う。 ・学習の評価は、各科目について100点満点とし、60点以上を合格点とする。 ・出席時間が所定時間の３分の２に満たないものは、科目の評価を受ける資格を失う。 ・それぞれの科目の履修方法は、当該シラバスに記載されている。	１学期の授業期間	15 週